

[01]韓国研究センター年報

<https://hdl.handle.net/2324/2203032>

出版情報：韓国研究センター年報. 1, 2001-03-15. Research Center for Korean Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

symposium

シンポジウム 2 韓国伝統文化と九州

シンポジウム「韓国伝統文化と九州」は、韓国国際交流財団による日韓学術シンポジウム助成事業の2000年度プログラムとして、2000年12月10日に九州大学国際ホールで開催された。韓国研究センターと九州大学大学院人文科学研究院の共催であった。

九州大学人文科学研究院は国内有数の朝鮮史研究の拠点であり、朝鮮史学講座の歴史は4半世紀を越えている。その蓄積を基礎として、古代から近世に至る九州を中心とした日韓の関係、とりわけ文化交流史に内在する問題を人文科学の諸分野にわたって考察し、新世紀の日韓の文化学術交流の方向性を展望することを目的に開催されたのが、今回のシンポジウムであった。

基調報告は李成茂（韓国国史編纂委員会委員長）によって行われた（内容は、以下に収録されている）。シンポジウム全体は3部によって構成された。第1部は「仏教と美術の交流」と題され、崔柄憲（ソウル大学人文学部教授）、安輝濬（ソウル大学人文学部教授）、菊竹淳一（九州大学大学院人文科学研究院教授）の3氏によって報告が行なわれた。第2部は「韓国儒学と西日本の儒学者」と題され、李楠永（ソウル大学人文学部教授）、福田殖（久留米大学文学部教授）の2氏によって報告が行われた。最後の第3部は「韓国語と日本語の交流」と題され、迫野虔徳（九州大学大学院人文科学研究院教授）、李秉根（ソウル大学韓国文化研究所長）の2氏によって報告が行われた。

